【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第１区分
【発行日】平成17年9月29日(2005.9.29)

【公開番号】特開2004-83290(P2004-83290A)
【公開日】平成16年3月18日(2004.3.18)
【年通号数】公開・登録公報2004-011
【出願番号】特願2002-238065(P2002-238065)
【国際特許分類第７版】
　Ｃ０３Ｃ　4/08
　Ｃ０３Ｃ　3/17
　Ｃ０３Ｃ　3/247
　Ｇ０２Ｂ　5/22
【ＦＩ】
　Ｃ０３Ｃ　4/08
　Ｃ０３Ｃ　3/17
　Ｃ０３Ｃ　3/247
　Ｇ０２Ｂ　5/22

【手続補正書】
【提出日】平成17年4月25日(2005.4.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　カチオン％表示で、P^{5+}　２３～４１％、Al^{3+}　４～１６％、Li^{+}　１１～４０％、Na^{+}　３～１３％、R^{2+}　１２～５３％（ただし、R^{2+}はMg^{2+}、Ca^{2+}、Sr^{2+}、Ba^{2+}およびZn^{2+}の合計量）、およびCu^{2+}　２．６～４．７％を含むと共に、アニオン成分としてF^{-}およびO^{2-}を含むことを特徴とする近赤外光吸収ガラス。
【請求項２】
　カチオン成分として、Zn^{2+}を含む請求項１に記載の近赤外光吸収ガラス。
【請求項３】
　アニオン％表示で、F^{-}　２５～４８％およびO^{2-}　５２～７５％を含む請求項１または２に記載の近赤外光吸収ガラス。
【請求項４】
　実質的にヒ素および鉛を含まず、波長４００～７００ｎｍの分光透過率において透過率が５０％を示す波長が６１５ｎｍになる厚さが０．１～０．８ｍｍの範囲にあって、前記厚さにおける波長４００ｎｍの透過率が８０％以上、波長８００～１０００ｎｍの透過率が５％未満、波長１２００ｎｍの透過率が２０％未満であることを特徴とする近赤外光吸収ガラス。
【請求項５】
　カチオン％表示で、P^{5+}　２３～４１％、Al^{3+}　４～１６％、Li^{+}　１１～４０％、Na^{+}　３～１３％、R^{2+}　１２～５３％（ただし、R^{2+}はMg^{2+}、Ca^{2+}、Sr^{2+}、Ba^{2+}およびZn^{2+}の合計量）、およびCu^{2+}　２．６～４．７％を含むと共に、アニオン成分としてF^{-}およびO^{2-}を含む請求項４に記載の近赤外光吸収ガラス。
【請求項６】
　カチオン成分として、Zn^{2+}を含む請求項５に記載の近赤外光吸収ガラス。

【請求項７】
アニオン％表示で、F^-　２５～４８％およびO^{2-}　５２～７５％を含む請求項５または６に記載の近赤外光吸収ガラス。
【請求項８】
液相温度が７５０℃以下である請求項１ないし７のいずれか１項に記載の近赤外光吸収ガラス。
【請求項９】
厚さ０．５ｍｍに換算した場合に、波長４００～７００ｎｍの分光透過率において、透過率５０％を示す波長が６３０ｎｍ未満、この波長よりも長波長側の透過率が５０％未満、前記波長よりも短波長側の透過率が５０％超であって、液相温度における粘度が０．５Ｐａ・ｓ以上であることを特徴とする近赤外光吸収ガラス。
【請求項１０】
カチオン％表示で、P^{5+}　２３～４１％、Al^{3+}　４～１６％、Li^+　１１～４０％、Na^+　３～１３％、R^{2+}　１２～５３％（ただし、R^{2+}はMg^{2+}、Ca^{2+}、Sr^{2+}、Ba^{2+}およびZn^{2+}の合計量）、およびCu^{2+}　２．６～４．７％を含むと共に、アニオン成分としてF^-およびO^{2-}を含む請求項９に記載の近赤外光吸収ガラス。
【請求項１１】
カチオン成分として、Zn^{2+}を含む請求項１０に記載の近赤外光吸収ガラス。
【請求項１２】
アニオン％表示で、F^-　２５～４８％およびO^{2-}　５２～７５％を含む請求項１０または１１に記載の近赤外光吸収ガラス。
【請求項１３】
銅含有フツ燐酸塩ガラスである請求項４ないし１２のいずれか１項に記載の近赤外光吸収ガラス。
【請求項１４】
請求項１ないし１３のいずれか１項に記載の近赤外光吸収ガラスからなる近赤外光吸収素子。
【請求項１５】
請求項１ないし１３のいずれか１項に記載の近赤外光吸収ガラスからなるガラス板を備えたことを特徴とする近赤外光吸収フィルター。
【請求項１６】
７１０℃以下の溶融ガラスを成形、冷却して請求項９～１２に記載の近赤外光吸収ガラスからなるガラス成形体を作製することを特徴とする近赤外光吸収ガラス成形体の製造方法。